

令和6年度 第2回宇治市スポーツ推進審議会

議事要旨

宇治市

令和6年度 第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

〈開催年月日〉

令和7年3月17日（月） 15時30分～

〈開催場所〉

宇治市役所8階 大会議室

〈出席者〉

➤ 委員

長積 仁（会長）

立命館大学 スポーツ健康科学部 教授

小川 由智

宇治市健康づくり・食育アライアンス 副代表

佐藤 朋子

宇治市スポーツ少年団 副本部長

柴田 敏雄

（株）京都パープルサンガ 地域連携本部 本部長 ホームタウン推進部 部長

多田 重光

（公社）宇治市観光協会 専務理事兼事務局長

西山 正一

宇治市体育振興会連合会 副会長

長谷川 理生也

宇治商工会議所 専務理事

森 美奈子

摂南大学 農学部食品栄養学科 講師

山下 篤央

京都文教短期大学 ライフデザイン総合学科 学科長・准教授

計9名

➤ 事務局等

貝 康規

副市長

脇坂 英昭

産業観光部 部長

柏木 三奈

産業観光部 副部長

岡部 均

産業観光部 文化スポーツ課 課長

菅居 聖承

産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 係長

伊藤 大志

産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任

菱木 智優聖

産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任

吉高 史彩

産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主事

櫻井 砂夫

産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 嘱託

上田 敦男

政策企画部 政策戦略課 副課長

計10名

〈会議内容〉

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 副市長挨拶

4. 委員、事務局職員紹介

5. 議事

令和7年度におけるスポーツ振興に係る取組について

・事務局より資料3 P1-5にもとづき説明

(会長)

京都マラソンに関する市民アンケート調査において、ワールドマスターズゲームズの認知度を問うたところ、2020年～2021年に20歳以上の市民の方々に取ったデータでは、約30%以上がワールドマスターズゲームズのことを認知していた。しかし、2024年のデータでは、ワールドマスターズゲームズの認知度は10%を切っており、次第に忘れられている。ワールドマスターズゲームズの開催を契機にし、特に観光とセットにして楽しめるイベントである部分において、宇治市がどのようにうまく活かせるかが重要になる。

また、宇治川マラソン大会が40回記念ということであれば、限られた予算の中ではあるが、宇治市の魅力を推し進めるようなことをしていただきたい。

最後に、宇部市とは30年交流されているが、宇部市は非常に有名なスポーツコミッションの活動をされていて、視察も多く来られている。3人程度の非常に少ない人員で様々なイベントをされているので、スポーツの交流だけではなく、そのようなスポーツコミッションについても学べるような機会にしていきたい。

(委員)

ワールドマスターズゲームズは各国から来られるため、多言語や食事の対応、宿泊地の手配などの整備をして、好印象で帰っていただき、リピーターに繋がるような仕組みを組み込んでいただきたい。

(事務局)

来年度のワールドマスターズゲームズの関係の予算においては、本大会と同じ会場である山城総合運動公園で宇治大会を行う予定である。

加えて、おもてなしについてより具体的に考えていくために、来年度実施されるワールドマスターズゲームズ2025台北大会へ職員の視察を予定している。

また、来年度はワールドマスターズゲームズ2021宇治市実行委員会を対面にて開催し、いろんな形での御意見を頂きながら進めていく。

令和6年度 第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

宇治川マラソン大会に関するアンケート調査において、宇治川マラソン大会やこのようなスポーツイベントに参加した理由、スポーツを始めたきっかけを調査できると考える。

(事務局)

ランナーに配付している抽選券の裏面にアンケートを設けており、また、ランネットにおいてもアンケートを実施し、宇治川マラソン大会に参加したきっかけ等について集約している。

(委員)

宇治川マラソン大会では、遠方から来られたものの、観光地が分からないためどこにも行かずに帰られる参加者がおられる。宇治市の魅力を伝えられるような仕組みがあると、マラソン大会の参加者への魅力発信に繋がると考える。特に来年が記念大会であれば、魅力発信について強化してもよいのではないかと考える。

(事務局)

宇治川マラソン大会の第40回記念大会においては、宇治市の魅力発信をコンセプトの1つとして実施したいと考えている。

キービジュアルを使用した参加賞を用意するほか、宇治市の魅力ある場所に行っていただくため、観光に関わるパンフレットなどを活用し、40回記念にふさわしい大会になるよう検討していく。

(委員)

宇治川マラソン大会の走路員として長年従事しているが、海外や他県から来られる観光客に声を掛けられることがある。その際に対応できるよう、観光パンフレットを走路員に配付してはどうか。

(委員)

宇治市の人口が減少傾向にあるため、宇治に住むと健康になることができるという視点から、健康都市宣言をすることで定住者の促進につながるのではないかと考える。

幾つかの市町村が既に健康都市宣言をされているが、取り組み例の中にスポーツや運動の推進などがある。

(委員)

お茶をキーワードとする団体などを絡めながら、健康都市をPRしていくことでより宇治市の魅力発信に繋がると思う。

令和6年度 第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

子育てに優しいまち実現プロジェクトの事業の一環として、つなげる・ひろがるスポーツ振興事業とあるが、近年ではどんな内容か。

(事務局)

「Uji こどもスポーツフェスタ」、「多世代交流スポーツフェスティバル」、「市民スポーツまつり」、「ニュースポーツひろばの親子連携事業」の4つの事業があり、子どもがスポーツをするきっかけづくりやスポーツを通じた世代交流を深めていく事業を展開している。

(委員)

一般的に子どもが減少し、高齢者が増加している。そういった中で、若い方から年配の方まで安心して住むことができるということが子育てに優しいまちと考える。

しかし、毎年予算が限られているため、重点化する内容を検討し、取り組む必要があると感じている。宇治市ならではの取り組みなど、重点的に取り組んでいるものはあるか。

(事務局)

重点的に行っているものとして、「多世代交流スポーツフェスティバル」がある。祖父母が孫を連れて一緒にスポーツに触れていただくなど、多世代で交流できるものとして重点を置いている。

加えて、ワールドマスターズゲームズに向けた取り組みについて重点的に取り組んでいくところである。

(委員)

イベントに参加することで終わるのではなく、そこからスポーツをするきっかけづくりになることを目的とし、検討していただきたい。

(委員)

宇治川マラソン大会において、キッチンカーを増やす等、走り終わったランナーや応援等で来られている方、ボランティアの方が交流をして、まちの活性化に繋がるような流れを作ることができないか。

また、宇部市とのスポーツ交流において宇部市を歓迎し、おもてなしするべき。

(会長)

「つなげる・ひろげる」の取り組みは重要だと考える。今、実施している事業の中で連動性や継続性などを踏まえられるように検討していただきたい。

・事務局より資料3 P6-25にもとづき説明

令和6年度 第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(会長)

前回の調査との比較を踏まえたアンケート調査となる。全般的には、認知と態度と行為、行動について調査を行うものとなっている。

(委員)

9ページの問7、問8に記載されている、今回新しく追加されたeスポーツに関する質問について、回答者がわかるようeスポーツの定義を記載していただきたい。

(委員)

「スポーツがつなげる」に関する質問のうち、12ページの問14にある地域コミュニティにどのような役割を期待するかについての質問において、スポーツを通じた交流の場を設定し、地域の人とスポーツを通じたつながりを希望するかについて調査する必要があると感じる。

(委員)

アンケート調査の対象として個人の場合はどういった方を対象に、どんな形で回答を求めるとか、団体の場合は団体の定義はあるか。

また、実施する方法や実施時期などの実施概要を教えてください。

(事務局)

対象について、基本的には前回と同様の形を考えている。個人については、市内にお住まいの20歳以上の男女2,000人を対象に無作為抽出となる。団体については、市内の運動施設利用団体や、運動・スポーツ実施関係団体が対象となる。

調査方法については、基本的に郵送を想定している。なお、ウェブで回答できる仕組みも設けるため、紙若しくはウェブのどちらでも回答可能となる。

実施時期については未確定ではあるが、来年度の8月に実施予定の審議会までには、回答を集計して、報告するべきだと考えている。

(会長)

細かい項目の適切性や表現、ワーキングの問題など、前回の調査と比較しなければならないところに関する部分については、前回と同様の形で実施する必要があるが、私のほうで最終チェックをさせていただく。

また、この場で意見を出すということが難しいので、3月末ごろを目安にご意見等があれば事務局に連絡を。

6. その他報告事項

- ① 北小倉小学校跡地活用基本構想(案)について
・ 政策戦略課より資料4 P1-8にもとづき説明

令和6年度 第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(会長)

いかにも公共施設というような感じではなく、アーバンスポーツなど、新しい方々に対するメッセージ性を考えるならば、デザイン性や空間の演出など、集客性のあるデザインを検討していただきたい。

(委員)

管理棟を災害時の避難場所として残すとあるが、給食棟も残るのか。

(事務局)

給食棟については今後検討していく中でスポーツ、遊び場のために建物としては残す可能性があるが、給食棟としての機能は残すことはないと考えている。

(委員)

災害時には、給食棟の機能や設備があれば役立つ。

(委員)

市街化調整区域ということであるが、せっかくアーバンスポーツをターゲットとしているので、飲食事業は考えていないのか。

(事務局)

飲食となると法律なども関わってくるが実現の可能性はある。施設の具体的な機能については今後の検討となる。

(会長)

日常的に集客できる施設として、イベントや大会が開催されていなくても人が集うことができる機能を持てるような施設を目指してほしい。

(委員)

北小倉小学校を利用しているスポーツ団体が継続して試合等を実施できるのか。

(事務局)

令和8年4月から学校ではなくなるため、それ以降の利用については、新しいルール作りが必要だと考えている。その検討の中で、今ご利用いただいている団体への説明や調整も必要と考えている。

また、工事期間においては施設を閉鎖することになると考えている。

(委員)

工事が終わった後、どのような利用方法となるか。

令和6年度 第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(事務局)

完全に学校ではなくなり公園施設となるため、公園施設としての利用料金や利用時間など具体的な内容については今後検討することとなる。

(会長)

公園施設となった後、できていることができなくなることはないという認識でよいか。

(事務局)

これまでの利用状況としてはグラウンドと体育館の利用がほとんどであり、現状、グラウンドと体育館を残す計画となっているため、会長の認識のとおりである。

(会長)

新しくできるが増えるが、今できていることができなくなる場所ではないと。これまでと同じような利用形態でできるか不透明な部分があると考ええる。

(委員)

一般の方々も利用される場所となる。

(事務局)

西宇治公園と併せて、市内全域の方を対象とした施設となる想定である。

(委員)

北小倉地域の住民の方々が、地域スポーツの振興のため北小倉小学校を利用されている。

今後、新しくできる宇治西小倉学園を利用できるかもしれないが、元々あった3つの小学校の各クラブが1つのグラウンドを利用することは、利用人数的にも難しくなる状況が出てくると思われる。全市民対象施設ということは理解しなければいけないが、北小倉地域の住民の方々の利用に対し、何か配慮する内容を入れてもらえれば、地域の方々が喜ばれると思う。

(会長)

金銭的なメリットや、優先利用については公平性の問題があるため難しいが、近隣住民はスケートボードなどのこれまでできる場所がなかったものを体験できるような新しい機会に恵まれ、便益は得られると考える。

令和6年度 第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(事務局)

地域に新しい施設ができるという点については近隣住民にとってメリットであると考え
る。

地域にあったものをどのように活かしていくか、他方で市内全域の住民の利用について考
える視点もあり、検討における一つの課題だと認識している。

(会長)

近隣住民の活動の場として、現在行っている活動が低調になったりすることがないように
オペレーションが工夫される必要がある。

② 宇治市部活動地域移行の検討状況について

・事務局より資料4 P9-15にもとづき説明

(会長)

部活動の地域移行に関するところは、学校教育課だけでなく、文化スポーツ課と生涯学習
課の3つの組織で連動して行っている。

つまり、部活動の改革だけではなく、部活動の改革を起点としながら、宇治市の文化スポ
ーツの振興にどのような仕組みづくりをしていくかという発想がある。

現状のところでは、拠点校型を中心としながら改革を進めていき、それを踏まえたうえで、
学校の教員だけでなく、地域の方々にも参画をしてもらい、地域・学校・家庭が連動するよ
うな形で文化スポーツの振興を図りたい。

宇治市部活動地域移行検討委員会の資料に記載されるデータによると、文化・スポーツに
関する部活動の地域移行において、中学生の受入れについて積極的に考えている団体が3
0%弱程度、また、積極的に協力できると考えている団体が40%程度、つまり全体で70%
程度の団体は比較的好意的に回答され、残りの30%程度は難しいと回答されている。

(委員)

部活動の地域移行を受け入れていただく団体についてどのように確保していくかが課題
である。

(会長)

現状では指導者の派遣や、団体の中で中学生を受け入れるという形が検討されているが、
中学校の教員の方々が積極的に検討されている。

部活動の地域移行を図って地域クラブ化をしたときに、教員の方々が兼職兼業であっても、
土日の部活動における指導を希望している比率は、50%に満たないのが現状。部活動は他
業務から圧迫され、業務的に厳しいという回答が多い。

また、小学生や中学生は、休日に部活動をしたくないと思っている方々が60%程度とな
っている。

今までの部活動のスタイルではない新しいスタイルを構築することで、もっと部活動の幅

令和6年度 第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

を広げることについて検討していきたい。

③ eスポーツについて

- ・事務局より資料4 P16-20にもとづき説明

(委員)

障害のある方でも、健常者と一緒に行えるスポーツという面もあるので、幅広く理解をして推進していくというのが時代のトレンドだと考える。特に19ページに記載されているとおり、京都府も拠点施設を設けて行っているため、メリットの部分を理解しながら、正しく伝えて普及させるという取り組みも必要だと感じている。

(会長)

我々は新しい生活に根づいてきたような様々なキーデバイスをどのような形で推進していくのかということについて政策の中に盛り込んでいけるよう検討していきたい。

7. 閉会

- 事務局挨拶